

小説の文構造を応用した危険性の高いデマの機械学習による検知

Detection by machine learning of high-risk hoax applying the sentence structure of the novel

松田美慧・マネジメント分科会・中央大学

研究背景 近年、インターネット上の不確かな情報による社会混乱が問題視されている。対策として、ファクトチェックの推進やリテラシー教育などが実施されるが、不十分であり、新たな対策の検討が必要である。

研究目的 本研究では、言論の自由と両立したデマの監視体制構築に向け、人の感情を刺激するような面白さを内在するデマを危険性の高いデマと定義し、機械学習を用いて、早期発見に繋がる特徴を抽出することを目指す。

提案手法と研究計画

本研究は右図で示すよう3つのフェーズに分けて実施する。機械学習手法のLSTMを活用して、モデル化を行った後、デマと小説レビューを比較し、人が心を動かされる箇所の検出を試みる。現段階で、フェーズ2-2まで完了しているため、来年度はフェーズ2-3以降を進める予定である。

